



#34 ペットと住まい

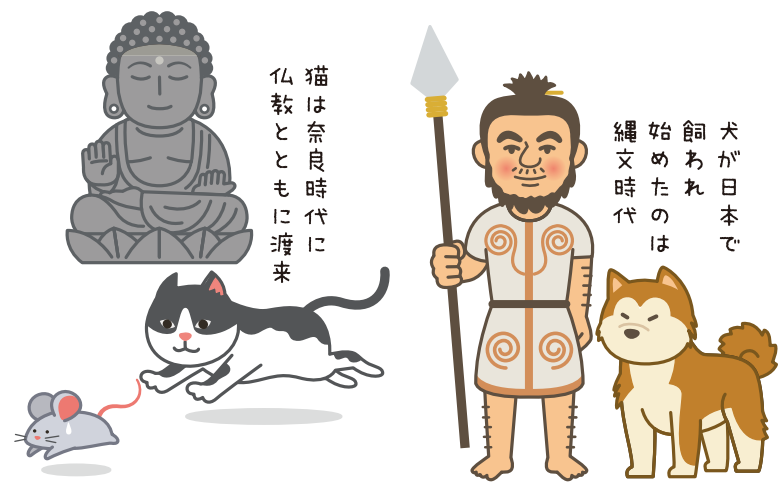
もっと幸せな ペットライフを 始めよう！

わが家に帰るといちばんに出迎えてくれるワンコ、お昼寝をしているといつの間にか寄り添ってくるニャンコ…。
その存在はもはや家族プラスαではなく「大切な家族そのもの」、「かけがえのない存在」ですね。
彼ら彼女たちと一緒にもっと幸せに暮らすには？ 互いに心地よく過ごせる住まいとは？
そんな思いで積水ハウス・総合住宅研究所が「ペットとの暮らし研究」に取り組み始めてから約20年になります。
今号ではこれまでの調査や研究、実践で得たノウハウの一端をご紹介します。

ペットとの暮らし、その歴史は遙か遠い昔。

人類が初めてペット化(家畜化)した動物は犬で、それは1万2千年前とも2万年前とも言われています。日本では縄文時代の遺跡から、人の骨と一緒に丁寧に犬の骨が埋葬されていたのが見つかっており、狩猟の良きパートナーとして飼われていたと想像されます。

かたや人が猫と暮らし始めたのは犬よりもずっと後になってからで、今から4000年くらい前とされています。日本に猫が登場するのは奈良時代頃、仏教が伝来して経典をネズミから守るために渡来したと言われています。

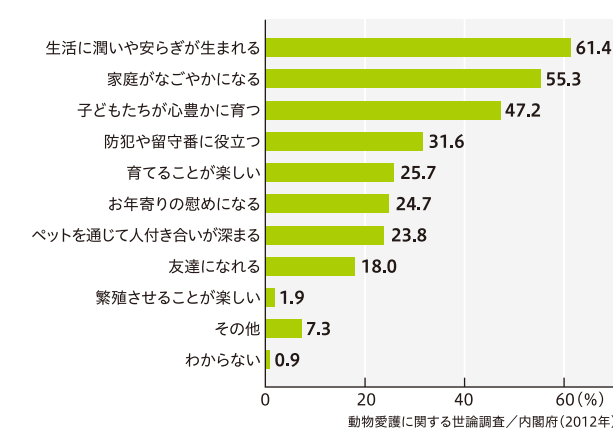


猫は奈良時代に
仏教とともに渡来

犬が日本で
飼われ
始めたのは
縄文時代

**ペットにはペットなりの
住まいへの要望がある！**
時代とともに担う役割や飼い方が変わり、犬・猫自身にとつての生活環境も大きく変化しましたが、彼ら彼女たちは決して動物としての本能や習性を失ったわけではありません。
住まいは犬・猫にとつても大切な「わが家」。一緒に家族として暮らすのですから、その特性を理解してより良い生活環境を考

■ペット飼育が良い理由



から大きく変わりましたが、「日々の暮らしにやすらぎや潤いを与えてくれる」という理由で今も変わらず愛され、ともに私たちが暮らしています。そして、少し前までは「番犬」として庭先で飼われることの多かった犬も今や室内飼いが増加。猫も動物愛護管理法で「室内飼育に努めること」とされており、住まい(室内)とペットの関係はますます深まっています。



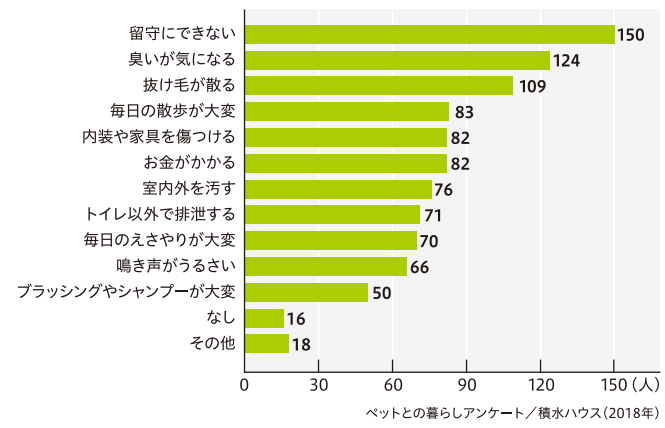
上下運動が得意な猫は高い場所を好み、外を眺めるのも大好き。



リーダーの姿を見て安心する犬には飼いの見える居どころ。

えてあげたいものです。
ご存知の通り犬の祖先は野生のオオカミで、リーダーに従って群れで生活する習性が受け継がれています。住まいの中ではいつもリーダーである飼い主の姿を求め、家族(群れ)と過ごすことで安心します。
逆に猫は元来、単独行動をしてきた生きものなので気ままな個人主義。ハンターとしての習性を残し、優れたジャンプ力を持っています。上下移動が得意で、見渡し・見下ろしの利く高い場所が安心できて大好きです。

■ペットを飼うと気になること、飼っていて気になること



**飼い主には飼い主としての
思いや悩みがいろいろ！**
わが家のワンコやニャンコが心地よさそうに過ごしている姿を眺めるのは、飼い主にとって至福の時間。とても気持ち癒されますよね。でも一緒に暮らす上で色々と悩み事が多いのも事実です。
「ウチの子のために」とガマンや無理をしながらの暮らしでは、決して相思相愛の関係は長続きしないもの。人がストレスを抱

これらの本能・習性を住まいに反映すると、犬には飼い主や家族の姿が見える居どころ、猫には上下運動ができる高い居どころを作ってあげると良いと言えます。もちろん犬にも猫にも個性があるので、ウチの子はどんな場所が好きか普段から観察して住まいづくりに活かすようにしましょう。

えないようにすることも、ずっと一緒に幸せに暮らすために大切なことです。

ペットとの暮らしで気になることの調査では「留守にできない」「散歩が大変」「お金がかかる」と言った管理面での悩みもありますが、住まいに関わる問題も少なくありません。「臭い」や「抜け毛」「汚れ」「内装や家具の傷などは、住まいの工夫で解決することができます。

ペットが喜ぶ居どころづくりと家族のストレスを解消する工夫をバランス良く住まいに組み込むのが、幸せなペットライフの第一歩とも言えるでしょう。



ペットで家事の負担が増えたら、可愛いかったはずが……。

まず、床・壁に着目して ペットも人もストレス解消。

臭い、抜け毛・汚れ・傷といった悩み事の多くは、床・壁の仕上げ材の選び方によってずいぶん緩和されます。特にワンコやニャンコが走り回る床は、汚れや傷に強く、お掃除しやすい仕上げにすることで飼い主のストレスは大きく軽減されます。

ただ、床はペットの足腰の健康にも大きく影響するものです。清掃性に優れたフロアリング床などは硬くて滑りやすく、それ

また、ワンコもニャンコも音にとても敏感なので、屋外の騒がしさが届きにくい場所を考え、インターフォンや電話の音も外出時には調整するなどの工夫をしておきたいものです。たとえば窓際が落ち着く場所なら、二重サッシなどで外気温の影響や騒音を軽減するのも一案です。

お利口さんにお留守番してる？

元気に遊んでるかな？ 機嫌よく寝てるかな？ 無駄吠えてない？ 外出先でもウチの子の様子って気になりますよね。そんな時に役立つアイテムがペット用の見守りカメラです。スマホやタブレットでいつでもどこからでもお留守番の様子がチェック可能。最近はごはんやおやつを与えたり、話しかけられるタイプもあり、ますます安心・便利で利用者が増えているようです。画質も良く、外出先でもほのぼのと癒されます。



天井にカメラを設置しておけば、部屋中どこにいてもチェック可能。

外出先からスマホで様子を確認
可愛い姿に癒されます

ワンコが避難所に適応するための5つのポイント

- Point ① しつけをしっかりと**
むやみに吠えない、「待て」や「伏せ」などの基本的なしつけを徹底。普段から家族以外の人や他の犬と交流して社会性を身につけておく。
- Point ② 必ず予防接種を**
避難所に犬が収容される場合は、犬同士をまとめて1ヶ所に集められることがあり、**予防接種**や**去勢・避妊手術**を受けておく。
- Point ③ 飼い犬登録を忘れずに**
被災時には飼い犬登録されている犬から優先して保護されるケースもあるため、必ず登録を済ませ、**鑑札**や**狂犬病予防注射済票**を付けておく。
- Point ④ 飼い主の連絡先を明示**
迷子になった場合は、飼い主が特定できることが重要。普段から飼い主の**連絡先**を記した**名札**や**ICチップ**付きの**首輪**などを付けておく。
- Point ⑤ 預けられる場所の確保**
避難所での犬の受け入れが可能かを自治体等に確認しておき、飼い主だけが避難所生活になった時に**預けられる知人宅**や**ペットホテル**などを準備しておく。

普段だけじゃない、万一の時の備えも肝心。
一緒に暮らす毎日の心地よさはもちろん大切。でも大きな自然災害が発生したら、ペットも人と同じように危険に遭遇することになります。普段から家族の一員として万一の被災の備えを考えておくために、ここではリーダーとして飼い主を必要とするワンコの場合についてお伝えしましょう。

まず、家族での防災会議でウチの子のこともきちんとチェックしておくこと。避難所でのペットの受け入れの可否やルールなどを問い合わせるようしましょう。また避難所で過ごすことになった場合、環境が変わってワンコは人間以上に不安になりがちです。そんな時にもおとなしくしていられ、家族の姿が見えなくても平然と待つていられることが大切になります。

普段のしつけを筆頭に左記の5つのポイントに配慮しておきましょう。
* ペットとの暮らしは、私たちに本当に多くの喜びをもたらしてくれます。彼ら彼女たちから受け取るその幸せを、ペットたちにも与えられるようにと考えて暮らしたいものです。

どんな床仕上げが理想？

(床材歩行実験/積水ハウス・総合住宅研究所)

本質系フロア(床板) 無垢フローリング	クッションフロア	タイル	歩きやすく 掃除しやすい 床材があれば!
	コルクフロア		タイルカーペット
歩きにくい 掃除しにくい床材		カーペット	

↑ 清掃のしやすさ ↓

↑ 歩行性の良さ ↓

ファブリックフロアでは歩幅が広く速度も速くなる。
フローリング材では歩行速度が落ちたり歩幅が狭い。

が室内飼いワンコの関節トラブルの原因になっているとも言われています。実際に実験研究をした結果、フローリングでは歩行速度が落ちたり歩幅が狭くなり、動作の安定性が保ちにくいことが判明。掃除のしやすさとワンコの歩行性の良さを両立する床材選びは意外と難しい課題なのです。そこで、研究を重ねて開発した床材が「ファブリックフロア」です。適度なクッション性でペットの足をしっかりとグリップしてケガを予防し、水分が浸み込みにくく汚れもつきにくいのが特徴。抜け毛も掃除機で簡単に取れて、部分的にはずして水洗いも可能な床材としておすすめしています。

また壁の仕上げ材は、ニャンコの爪とぎ対策やペットの身体が擦れる部分の汚れ対策がポイント。傷つきにくい表面硬度の高い壁紙や、水拭きや洗剤でメンテナンスしやすい壁紙を選ぶようにしましょう。腰壁にしてペットに対応すると同時にインテリア性をアップさせるのも素敵です。



汚れたらすぐ拭けて破れにくい「ペット対応クロス」。

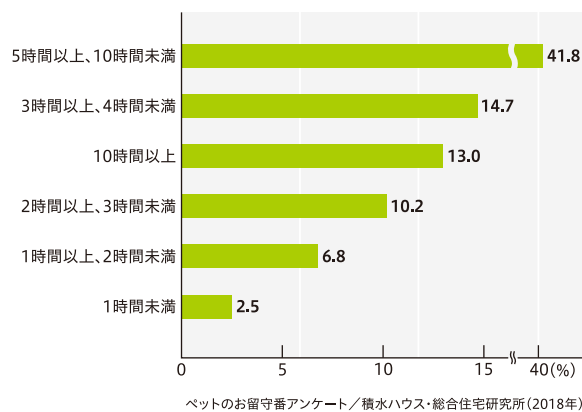
思いっきり駆けっこもできる「ファブリックフロア」。

ちゃんと考えておきたい、 お留守番の時の心地よさ。

飼い主さんの気がかりのトピックは「留守にできない」ですが、ペットたちにとっても「お留守番」はストレスになりがちです。特に群れでの行動を習性とするワンコは苦手なのですが、家族にも仕事や学校などの事情があつて、「独りぼっちでお留守番」は思いのほか多いようです。

そんなワンコが少しでも心地よくお留守番するためには、まず落ち着ける居どころの確保が大切。家族と一緒にいる姿が見える場所が良いですが、独りなら安心して「おこもり」できる囲われ感のある場所を用意しておくのがおすすめです。

ワンコのお留守番時間は？



そして環境面で配慮しておきたいのが、温度と音です。ワンコもニャンコも様々な種類があつて、暑さや寒さに弱いペットも増えています。実際にお留守番中にエアコンをつけておくといい方も多く、そんな場合はペットのいる部屋を限定しておくことで家中エアコンということも避けられます。



家族と一緒に居た場所の近くに設けたペットハウス収納に安心しておこもり。

ワンコのための 非常用グッズ

- 食べ慣れたドッグフード・飲料水**
賞味期限に注意して約1週間分を目安にストック。食器も合わせて用意しておく。
- ケージ(小型犬の場合)**
一緒に移動したり落ち着く場所として有効。できれば1匹につき1つ確保しておく。
- トイレ用シート・タオルなど**
使い慣れたトイレ用シートを約1週間分、愛犬用のタオル・毛布類もまとめておく。
- 薬類**
服用している治療薬がある場合は有効期限に注意して約1週間分を目安に用意しておく。
- リード・首輪など**
リードと首輪に加えて飼い犬登録の鑑札や予防接種の証明書なども整えておく。